

# 樽川エリア子ども・子育て支援機能検討事業

## 報告書

平成30年12月

石狩市





# 目 次

1. 業務概要 .....	1
1) 業務の目的 .....	1
2) 対象地区 .....	1
2. 対象地区の現状把握・整理 .....	2
1) 人口動向等の把握 .....	2
2) 子ども子育てニーズの把握 .....	4
3) 子育て環境の把握 .....	9
3. ワークショップの開催結果 .....	19
1) 第1回 ヒアリング開催結果 .....	19
2) 第2回 座談会開催結果 .....	25
4 地域ニーズの整理 .....	30
1) 子ども（幼児・小学生・中高生）の居場所の充実 .....	30
2) 子どもの遊び場・遊び環境の充実 .....	31
3) 妊婦・親同士・子どもの交流の場の充実 .....	31
4) 日常的な子育ての相談やサポートの充実 .....	32
5) 多世代交流や地域交流の場や機会の充実 .....	32
5 今後の方向性 .....	34
1) 現状施設の状況 .....	34
2) 求められる導入機能 .....	35

## 1. 業務概要

### 1) 業務の目的

樽川エリアは、近年の宅地開発によって子育て世帯の定住が進んでおり、今後、児童数の増加に伴い、放課後児童クラブなどの子ども・子育て支援機能の確保や充実が必要になることが予想される。

本事業は、周辺エリアにおける子ども・子育て環境の現況や課題を整理するとともに、地域のニーズを把握し、今後必要となる機能(ハード、ソフト)やその実現性、方向性を整理することを目的とする。

### 2) 対象地区

本事業における、検討の対象地区は、樽川地区および花川南地区を合わせた地域とする。



## 2. 対象地区の現状把握・整理

対象地区の地域特性を把握するために、人口構造や分布状況や主要施設の立地、子育て環境などの状況を整理した。

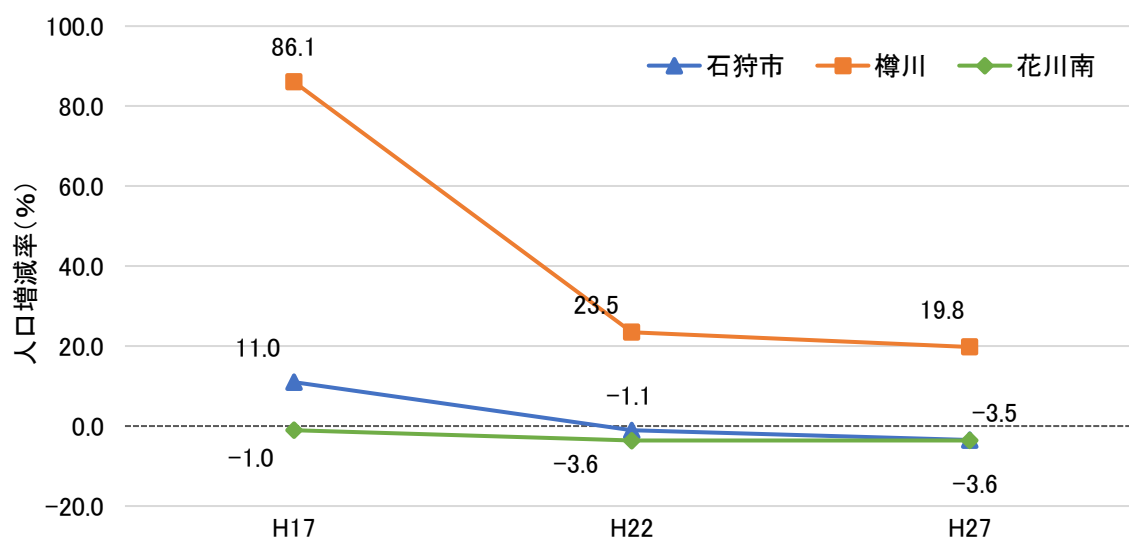
### 1) 人口動向等の把握

対象地区の人口や子育て世帯数の動向について把握するため、国勢調査などの統計データをもとに、集計・分析を行った。

#### ①人口動向

樽川地区は、平成になってから順次、市街化区域となった新しい住宅地で、近年も人口は増加傾向にあり、平成 27 年には約 5,600 人と平成 12 年(約 2,000 人)の 2 倍以上になった。

一方、花川南地区は昭和 40 年代初めから大規模な宅地造成が始まった地域で、平成 22 年以降は人口が減少傾向にある。



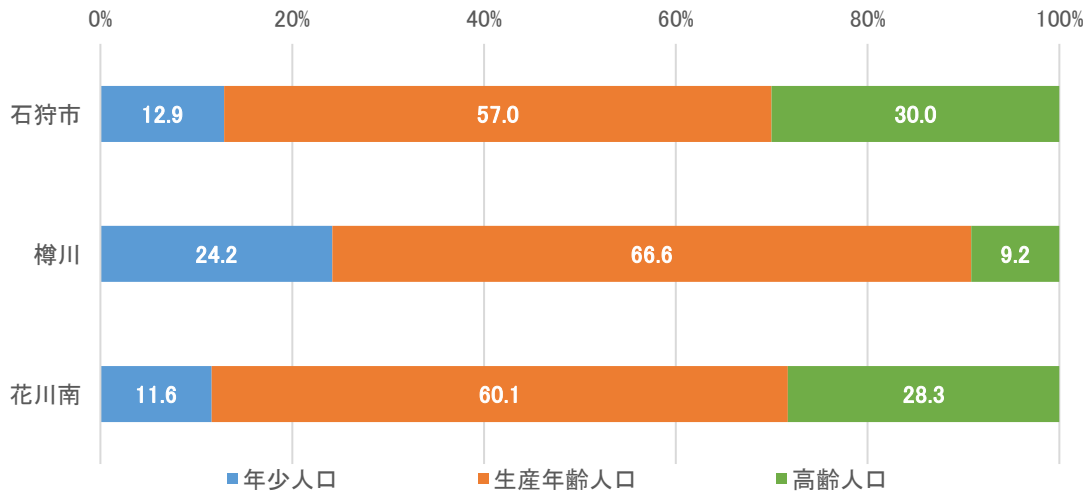
人口増減率の推移(H17-H27)

出典:国勢調査(平成 17 年~平成 27 年)

## ②人口構成

樽川地区の年少人口割合は24.2%、高齢人口割合（高齢化率）は9.2%と若い世代が多く居住している地域である。

一方、花川南地区の高齢人口割合（高齢化率）は28.3%で、石狩市全体と同様に、少子高齢化が進行している。

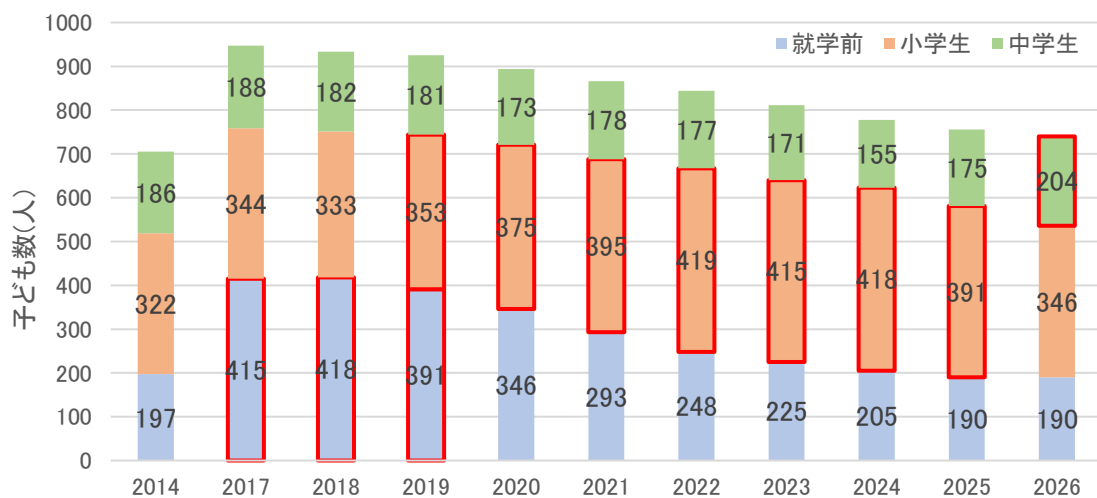


地域別の人口構成(H27)

出典:国勢調査(平成27年)

## ③児童数

樽川エリアでは、5条の宅地開発により2014(平成26)年から2017(平成29)年にかけて就学前児童数が200人以上増加した。児童数増の影響は、小学生では2019年度あたりから、中学生は2026年度から表れ始める見通しとなっている。



樽川3条～7条エリアの子ども数の現状と見込み(2018年度以降は見込み)

出典:石狩市

## 2) 子ども子育てニーズの把握

対象地区における子ども子育てニーズを詳細に把握するために、平成 25 年に実施された「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の調査結果をもとに、居住地域（小学校区）でクロス集計、分析を行った。

### ①調査概要

平成 25 年 11 月から 12 月にかけて実施し、市の就学前の子どもがいる世帯 2,237 世帯に配布し、873 世帯分（回収率 39.0%）を回収した。そのうち本事業の対象地区内に居住する回答者は、南線小で 209 世帯、花川南小で 184 世帯であった。

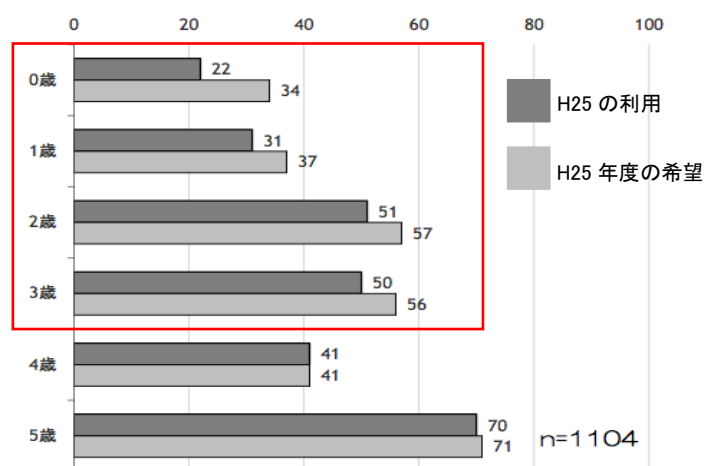
調査期間 平成 25 年 11 月 29 日～12 月 27 日

配布数	回収数（有効回収数）	
	南線小	花川南小
2,237 票	873 票 (回収率 39.0%)	184 票
	209 票	184 票

### ②調査結果

#### ■平日利用しているサービスと希望（問7）

石狩市全域では、市内の幼稚園、保育園、認定こども園それぞれにおいて、利用を上回るニーズがあり、特に認可保育園では、0 歳児におけるニーズが高い。



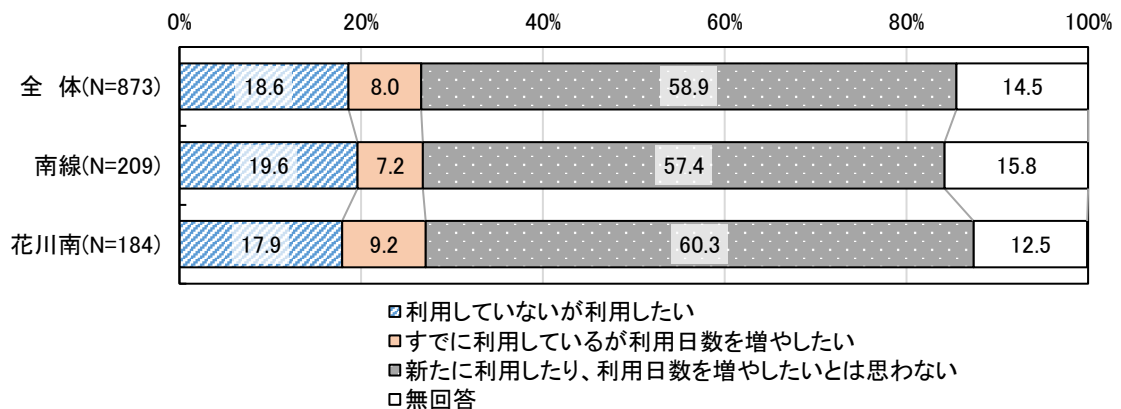
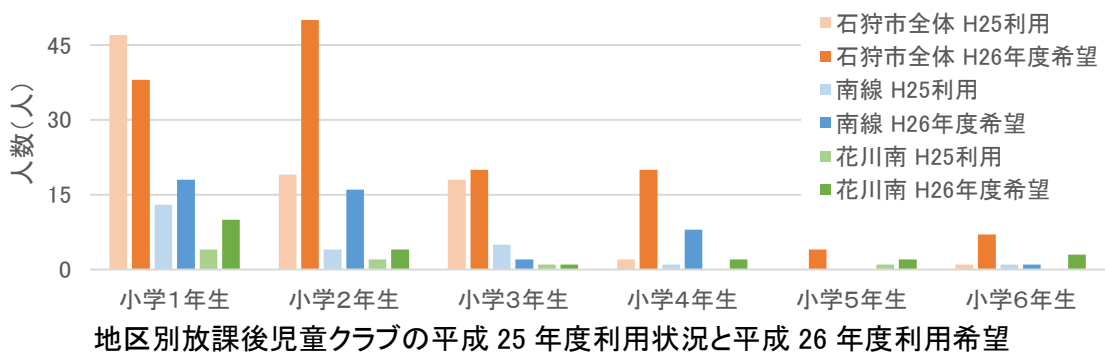
石狩市全域における認可保育園のニーズと需要

## ■放課後児童クラブ（問 14）、地域子育て支援拠点（問 20）の利用希望

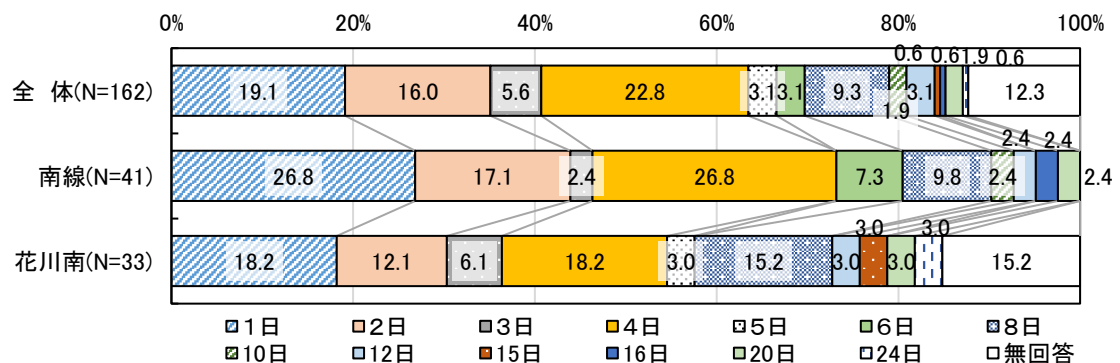
放課後児童クラブの利用希望について、市全体では2～6年生の希望が利用を上回っているのに対し、対象地区では小学校1、2年生などの低学年において希望が利用を上回っている。

地域子育て支援拠点について、新規利用、利用回数の増加の意向が全体の約3割で、南線小学校区において新規利用の希望が若干高い。

利用希望日数では、南線小学校区では、月1日と4日の希望が26.8%と多かった。花川南小学校区では週2回をイメージしたと思われる月8日が比較的多くなっている。



地区別の地域子育て支援拠点の平成 25 年度利用状況と平成 26 年度利用希望

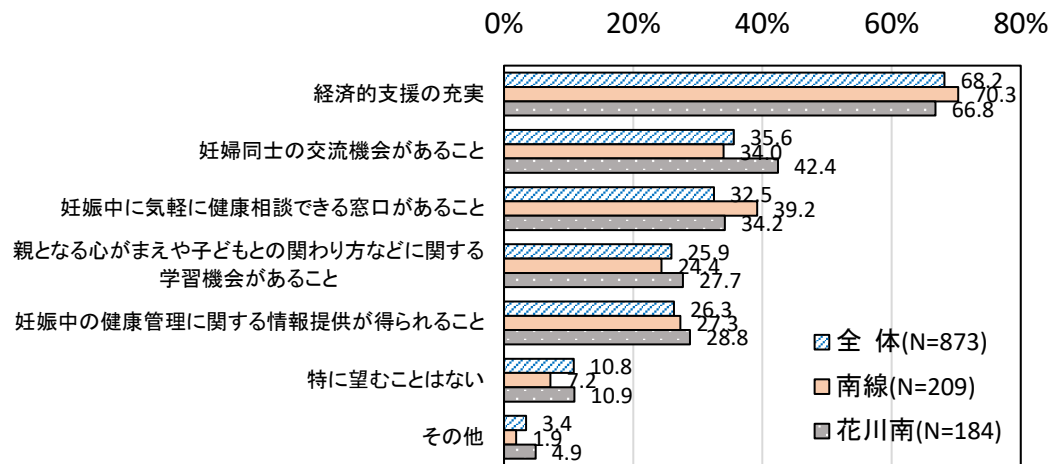


地区別の月当たりの利用希望日数



## ■妊娠期から出産期に対して望む支援（問 18）

経済的支援に対するニーズが約7割と最も多いが、妊娠中に気軽に健康相談ができる窓口や妊婦同士の交流機会に対するニーズも3～4割程度であった。

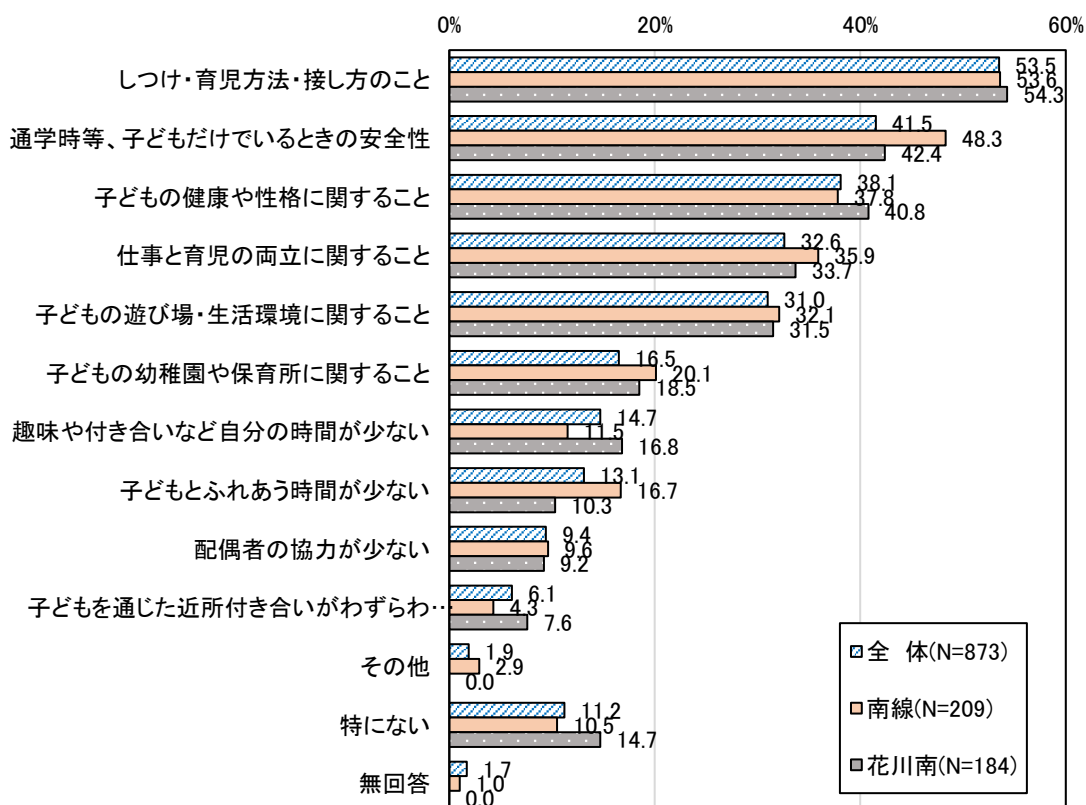


地区別の妊娠から出産期に対して望む支援

■子育てをする中で不安に思うこと（経済面以外）（問 21）

「しつけ・育児方法・接し方」「子どもの健康や性格に関すること」「仕事と育児の両立に関すること」など日常的な子育てに関する不安が高かった。

南線小学校区では、「子どもだけでいるときの安全性」や「子どもの遊び場、生活環境」など、都市環境に関する不安が他地区に比べ高かった。花川南小学校区では、おおよそ市全体の傾向と同様であるが、「子どもの健康や性格」が若干高かった。

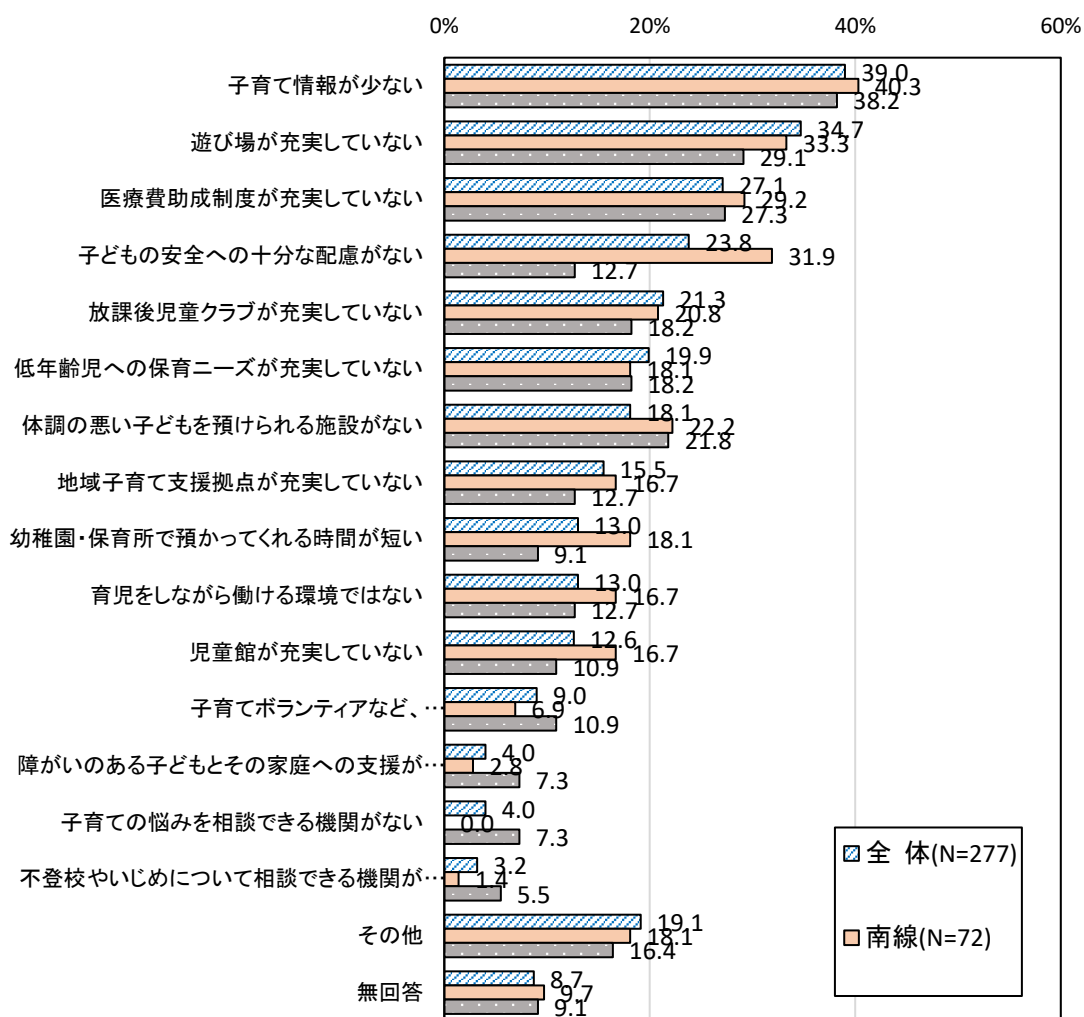


地区別の子育てをする中で不安に思うこと(経済面以外)

## ■石狩市で子育てをしにくいと感じるポイント（問 26）

全体としては、「子育て情報が少ない」「遊び場が充実していない」といったポイントをマイナスに評価している方が多い傾向にある。

対象地区においても上位4位までは市全体と同様の傾向であった。南線小学校区では、「子どもの安全への配慮」のほか、地域子育て支援拠点や児童館など子育て支援の場が求められる。



### 3) 子育て環境の把握

子育てしやすい環境づくりには、小中学校、保育所等、児童館などの子どもや親子が過ごす「場」、相談窓口や保険料制度などの子育てを支える「機能」と「制度」が必要である。

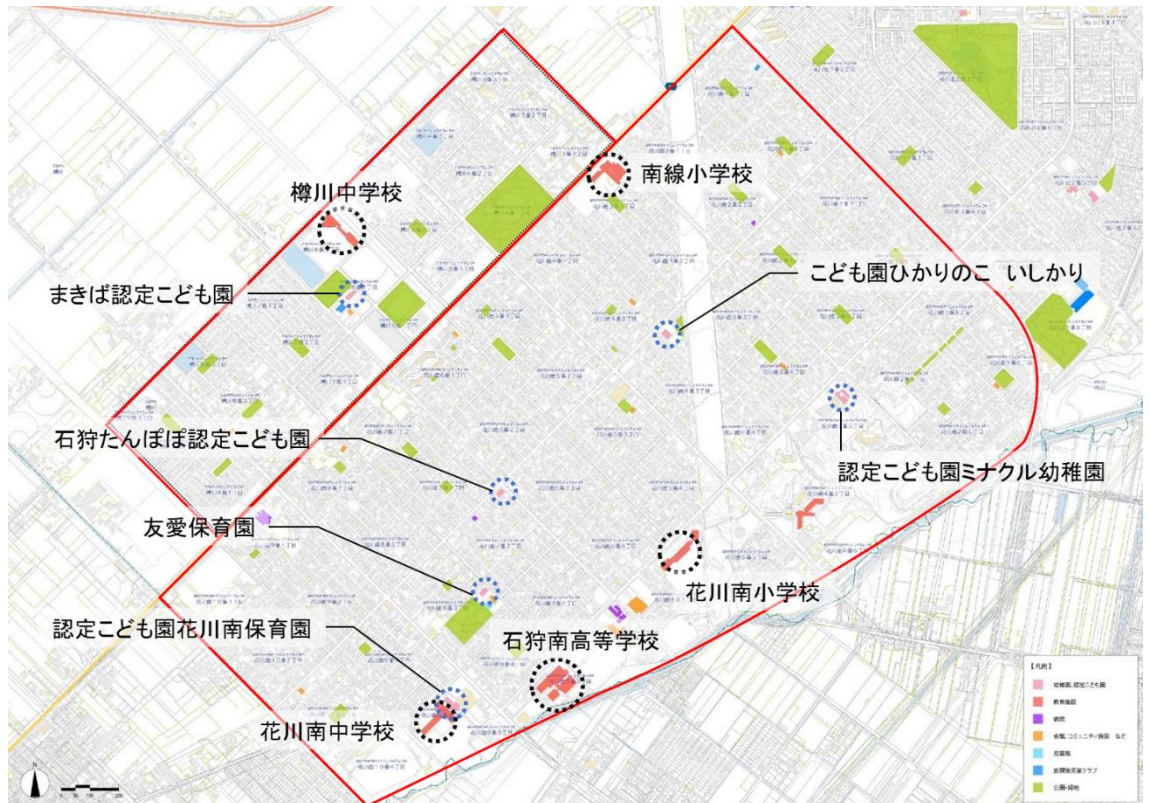
対象地区における子育て環境の現状を把握するため、「場」「機能」「制度」について整理・分析を行った。

#### ①子どもや親子が過ごす「場」

##### ■教育施設及び保育園、認定こども園

対象区域内には、未就学児向けの施設として認定こども園が5か所あり、学校は小学校2か所、中学校2か所、高等学校1か所設置されている。

地区	種別	名称	児童・生徒数	備考
樽川	認定こども園	まきば認定こども園	幼稚園部 6名 保育所部 60名	幼稚園部、保育所部
	中学校	樽川中学校	481名	
花川南	小学校	南線小学校	925名	
		花川南小学校	581名	
	中学校	花川南中学校	300名	
	高等学校	石狩南高校	914名	
	認定こども園	認定こども園ミナクル幼稚園	幼稚園部 300名 保育所部 20名	幼稚園部、保育所部
		認定こども園・ひかりのこいしかり	幼稚園部 35名 保育所部 150名	幼稚園部、保育所部
		石狩たんぽぽ認定こども園	幼稚園部 3名 保育所部 105名	幼稚園部、保育所部
		友愛認定こども園	幼稚園部 6名 保育所部 60名	幼稚園部、保育所部



教育施設及び保育園、認定こども園の分布状況

## ■児童館、放課後児童クラブ

対象区域内には、児童館2か所、放課後児童クラブが6か所設置されている。

宅地開発などにより人口が増加している南線小学校区内の放課後児童クラブの需要は供給を超え、定員の120%で受け入れを行っている状況である。

中高生の利用を想定した「大型児童センター」の機能を有する児童館は花川北地区にある「こども未来館あいぼーと」のみである。あいぼーとを利用する中高生は増加傾向にあり、花川南中学校、樽川中学校校区からも多く利用している。

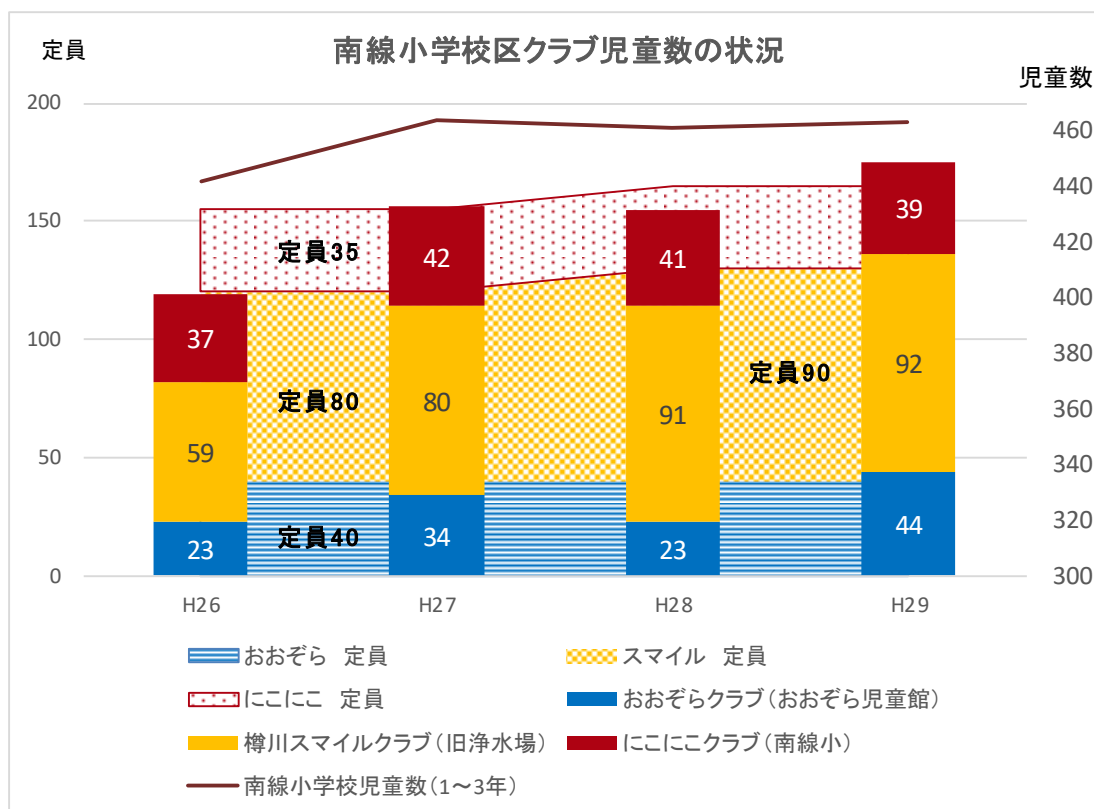
地区	種別	名称	定員	備考
樽川	放課後児童クラブ	樽川スマイルクラブ	90名	
花川南	児童館	花川南児童館	-	
		おおぞら児童館	-	
	放課後児童クラブ	なかよしクラブ	50名	花川南児童館内
		はまなす子どもクラブ	20名	花川南認定こども園内
		にじいろ南クラブ	20名	花川南小学校敷地内
		おおぞらクラブ	40名	おおぞら児童館内
にこにこクラブ	35名	南線小学校内		



児童館、放課後児童クラブの分布状況

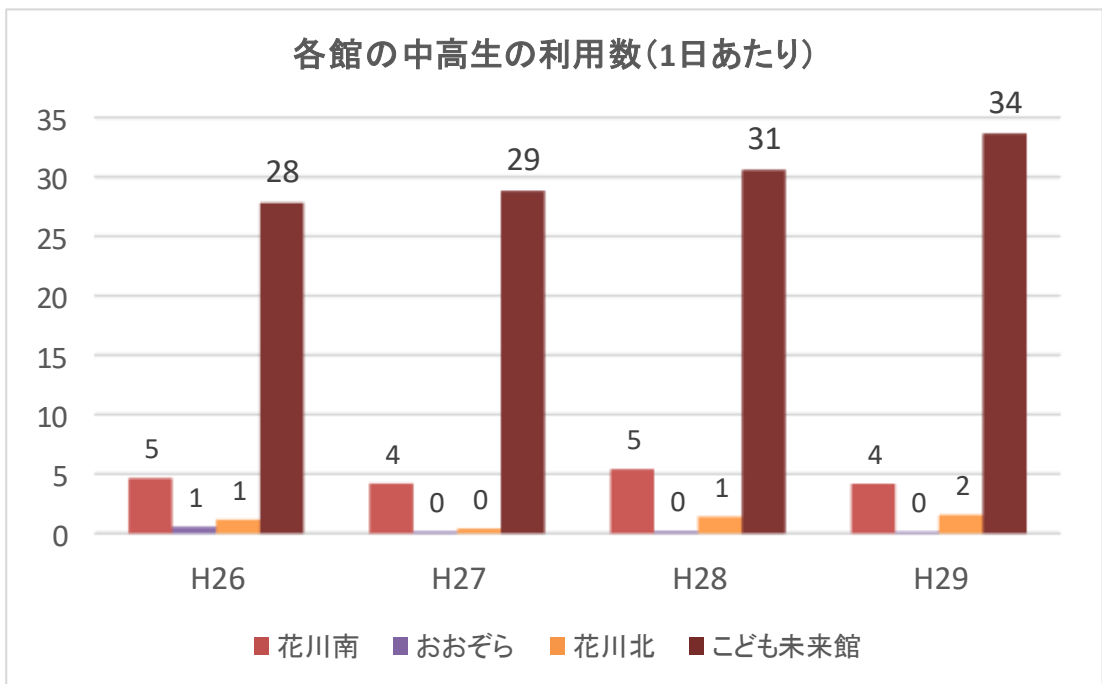
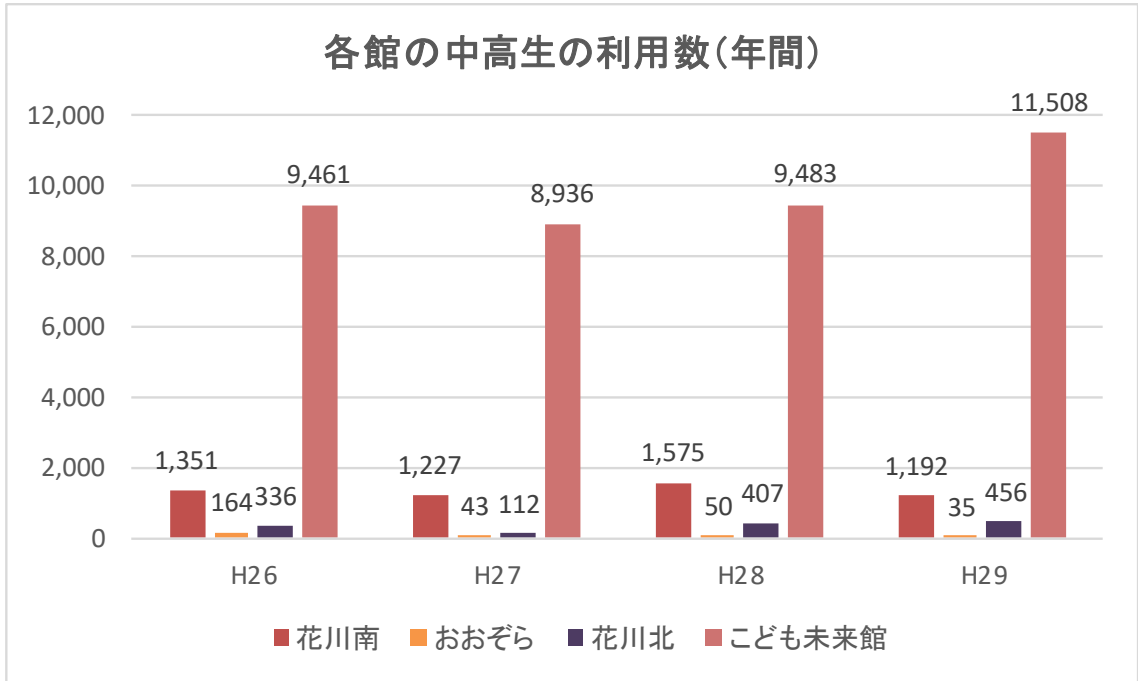
### ◎南線小学校区放課後児童クラブの状況

南線小学校区の放課後児童クラブの需要は供給を超え、定員の120%以内まで拡大して受け入れを行っている状況である。



### ◎児童館の利用状況

中高生の利用を想定した「大型児童センター」の機能を有する児童館は花川北地区にある「こども未来館あいぼーと」のみである。あいぼーとを利用する中高生は増加傾向にある。



出典：石狩市資料

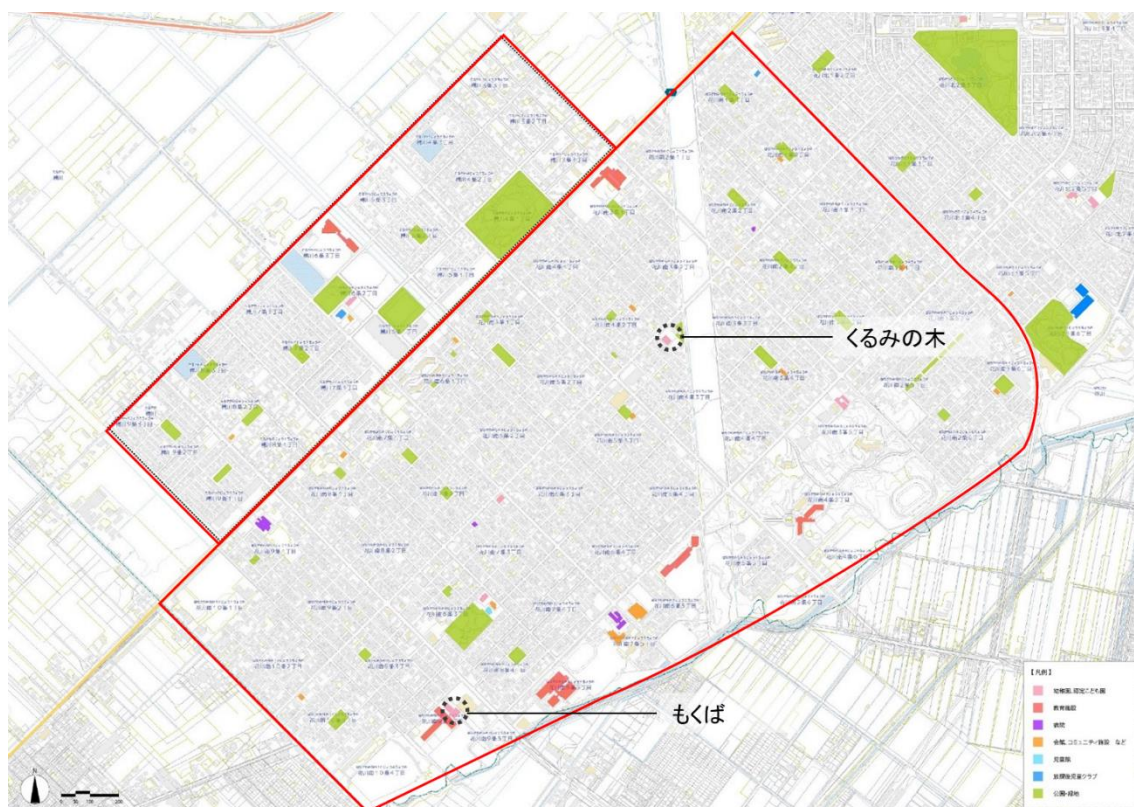


## ■地域子育て支援拠点

対象区域内には、地域子育て支援拠点は、2 か所ある。樽川、花川南地区をカバーする「くるみの木広場」は近年乳幼児連れの母親の利用が増加している。

樽川地区は近年若い世代の人口が増加しているが、最寄りの子育て支援拠点のくるみの木広場まで徒歩 30～40 分の距離があり、子育て支援拠点の空白地帯となっている。

地区	種別	名称	備考
花川南	地域子育て支援センター	くるみの木広場	認定こども園ひかりのこ いしかり内 週 3(月・火・水)10:00～15:00
		もくば	花川南認定こども園内 週 3(月・水・金)8:30～13:30

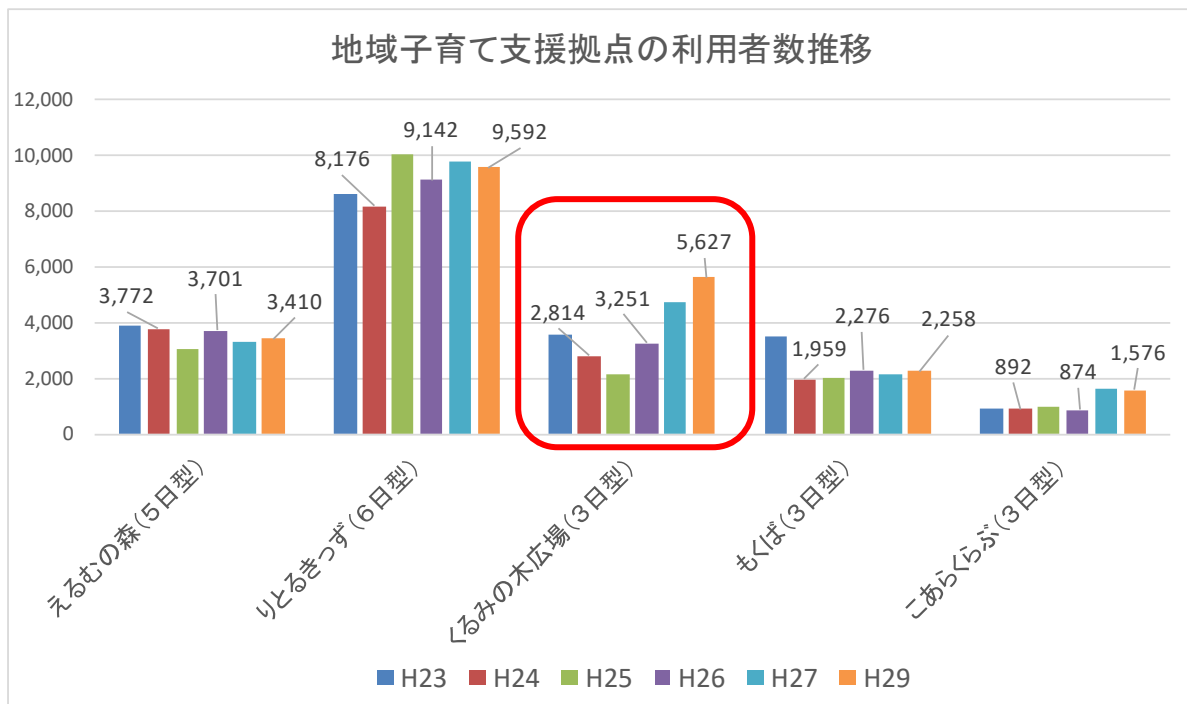


地域子育て支援拠点の分布状況

### ◎地域子育て支援拠点の利用者数

花川南地区には、地域子育て支援拠点が2箇所ある。樽川、花川南地区をカバーする「くるみの木広場」は近年乳幼児連れの母親の利用が増加している。

樽川地区は近年若い世代の人口が増加しているが、最寄りの子育て支援拠点のくるみの木広場でも徒歩30～40分の距離があり、子育て支援拠点の空白地帯となっている。



出典：石狩市

名称	所在地
地域子育て支援センター えるむの森	花川東 93 番地 5 えるむの森認定こども園内
子育てひろば りとるきっず	花川北 7 条 1 丁目 22 こども未来館あいぼーと内
地域子育て支援センター くるみの木広場	花川南 4 条 3 丁目 2 番地 認定こども園・ひかりのこ いしかり内
地域子育て支援センター もくば	花川南 9 条 4 丁目 83 番地 花川南認定こども園内
地域子育て支援センター こあらくらぶ	八幡 1 丁目 433 番地 14 認定こども園くるみ保育園内

## ②子育てを支える「機能」

### ■石狩ファミリー・サポート・センター

子育ての援助をしてほしい人（依頼会員）の要望に応じて、子育ての手伝いをしたい人（サポート会員）を紹介し、お互いの理解と協力のもとに有償で子どもを預かる事業。

＜援助時間＞7：00～19：00

＜対象年齢＞0歳～18歳

＜援助場所＞サポート会員宅、依頼会員宅、こっこひろば（市長公宅内など）

また、妊婦または1才までの子どもがいる世帯を対象にファミリー・サポート・センター無料利用券（4時間分）を配布する「子育てサポート事業」や、保護者が病気等で一時的に子どもの養育ができないときに子どもを預かる「こどもショートステイ事業」なども併せて行っている。

### ■特別保育サービス

#### ・一時保育

保護者が週3日程度のパート就労や傷病等で保育ができない子どもを、緊急・一時的に保育園で預かる制度。

＜対象児童＞認可保育園に通所していない生後8週以上小学校就学前の児童

＜援助時間＞月～土7：30～18：30

＜実施保育所＞緑苑台子どもの家保育園など

#### ・休日保育

日曜日・祝日等の休日に保護者の就労等により児童の保育をすることができない場合に、認定こども園で子どもを預かる制度。

＜対象児童＞①市内の認可保育園や認定こども園を利用している児童または、②生後8週以上小学校3年生以下の石狩市民で、認可保育所・へき地保育所・幼稚園・認定こども園、認可外保育施設・放課後児童クラブ等に通所している児童

＜援助時間＞日曜日または祝日7：30～18：30

＜実施保育所＞えるむの森認定こども園

#### ・病後児保育

病気回復期のため通園・通学が困難な児童を、仕事などで子どもを保育することができない保護者に代わり、認定こども園内の専用室で一時的に預かる制度。

＜対象児童＞生後8週以上小学校3年生以下の石狩市民で、保育所・幼稚園・認定こども園、認可外保育施設・放課後児童クラブ等に通

所しているが、病気回復期であるため通園・通学が困難で、保護者が仕事などで家庭保育できない児童

<援助時間>月～土8：00～18：00

<実施保育所>えるむの森認定こども園

#### ■子ども相談センター

子ども相談センターでは、子どもや保護者自身の悩み事について、母子父子自立支援員や家庭児童相談員が相談を受けている。

<相談時間>9：00～17：00

### ③子育てを支える「制度」

#### ■手当・制度

石狩市では、養育費や医療費などの手当・助成の制度を設けている。

助成・制度	内容
児童手当	15歳到達後最初の3月31日までの子どもを養育している人に支給される制度。
乳幼児医療費の助成	就学前までの乳幼児の初診時における一時負担金を除く保険内医療費を助成する制度。
学齢時(小学生)の特例給付	入院にかかる医療費のうち、保険内診療費の自己負担分を助成する制度。
ひとり親家庭等医療費の助成	一部負担金を除いた保険内医療費を助成する制度。
児童扶養手当	ひとり親家庭の生活の安定と自立の促進に寄与し、子どもの福祉の増進を図ることを目的として設けられた制度。
養育医療費の給付	身体の発達が未熟なまま生まれ、入院養育を必要とする乳児について、医療費の一部を公費負担する制度。

#### ■母子保健・予防接種事業

石狩市では、定期的な健康診査や健康相談などの事業を設けている。

助成・制度	内容
赤ちゃん訪問事業	生後1か月の赤ちゃんがいる家庭に保健師が訪問し、育児相談・保健指導を行う。
乳児健康診査	4か月、10か月児を対象に問診、計測、小児科医による診察、保健指導、栄養指導、歯科指導などの健康診査を行う。
1歳6か月児健康診査	1歳6～7か月児を対象に問診、計測、小児科医による診察、歯科検診及びフッ素塗布、発達相談、保健指導、栄養指導、歯科指導などを行う。
3歳児健康診査	3歳児を対象に問診、計測、小児科医による診察、歯科検診及びフッ素塗布、発達相談、保健指導、栄養指導、歯科指導などを行う。
5歳児健康診査	5歳児を対象に市内幼稚園・保育園・りんくるで育児、栄養、心理、就学相談を行う。
乳幼児健康相談	乳幼児の発達や栄養、または育児等に関する相談を行う。
子ども発達相談	乳幼児の心身の発達や育児について臨床発達心理士が相談に応じる。
歯科検診、フッ素塗布	歯が生えてから4歳までの子どもを対象に歯科検診・フッ素塗布・ブラッシング指導を行う。
離乳食教室	乳児及び保護者を対象に、子育て教室、炉入植教室を開催する。
定期の予防接種	各種予防接種を個別又は集団で受けることができる。

### 3. ワークショップの開催結果

樽川エリアの子ども・子育てに係る現状や課題、ニーズを実態に即して幅広く捉えるため、ワークショップを2回実施しました。

#### 1) 第1回 ヒアリング開催結果

##### ①実施概要

日時：平成30年8月6日（月）10：30～14：00

場所：パストラル会館（樽川6条2丁目601）

参加者：8名

※ファミサポ「出前っこひろば」内で実施し、来場した母親にヒアリングを実施



##### ②ヒアリング結果まとめ

#### (1) 子育てに関して困っていること・悩み

##### ○交通の便が悪い

- ・札幌と比べて交通の便が悪い。無料開放の幼稚園や買い物、病院へ行く時など、車が使えないため遠いと感じる。車が運転できないと、買い物なども夫のいる休日に限られてしまう。徒歩の際は、子どもを抱えることになるため、冬場や夏の暑い日は特に大変である。
- ・花川南幼稚園を希望しているため、幼稚園内の子育て支援センターもくばに行きたいが、交通アクセスが悪いため、なかなか行けない。（徒歩で30分程度、路線バスは2本/日）

### ○家事が進まない

- ・家事がうまく進まないことがある。

## (2) 子育てに関して不安なこと

### ○子育てにかかるお金について

- ・子どもの年齢が上がるにつれ、医療費などお金がかかる。9ヶ月の子どもよりも小学生、中学生の子どもの方にお金がかかっており、今後子どもたちが大きくなっていくにつれ不安である。
- ・現在は1人目の子どもであるが、2人目を考えたときに、経済的な不安を感じる。幼稚園の無償化など、経済的支援がほしい。

### ○子育てに関する相談者について

- ・夫婦とも道外出身(生涯石狩に在住予定)のため、身内が近くに居ないので、相談できる人が居ないため不安を感じる。

### ○保育園への入園について

- ・保育園に入れるかどうか。4月からの入園を希望しており、仕事の復帰も考えているが、10月からの募集に対し、どの幼稚園か悩んでいることに加え、入れるかどうか不安である。

## (3) 日頃活用している子育て支援・場所

### ○周辺の子育て支援施設

- ・ファミサポ「出前こっこひろば」(行ける日/週1~月2/今回初めて)
- ・ひかりのこいしかり(最も頻繁に行く)
- ・あいぼーと(月1~2回)
- ・子育てひろばりとりきっず(2週間に1回/)貸衣装などあり、子ども(女の子)が喜ぶ。部屋は少し狭い。
- ・もくば(バスで週3回)
- ・図書館(2週間に1回)子どもも本を借り、読み聞かせをしている。

## (4) 利用する施設などで感じている不便性や課題

### ○二人以上の兄弟の遊び場について

- ・兄弟を一緒に遊ばせようと思っても、上の子は公園など広い場所で遊ばせたいし、下の子はこのような室内の遊び場が良く、二人を遊ばせるのに丁度よい場所があると良いと思う(児童館が望ましいがお休み)。

### ○開催頻度について

- ・できれば「こっこひろば」の開催頻度を増やしてほしい。

### ○立地（遠い）

- ・「ひかりのこいしかり」は遠くて不便である。もっと近くにあると良い。
- ・「こっこひろば」のような子どもが遊べるところが周辺に無い。できれば毎日通いたい。

## (5) 子育てに関して必要だと感じている支援・必要だと感じている場や施設 (位置や機能)

### ○住宅地からの近さ

- ・近くに遊ぶ場所が欲しい。
- ・「ひかりのこいしかり」や「もくば」は徒歩で30～40分程度かかるため近場に子育て支援センターや遊び場があるとよい。
- ・国道を渡らないでいける樽川エリアに施設があるとよい。
- ・夫が仕事中は車がないため、徒歩圏内に児童館などがあるとよい。

### ○子どもたちの交流や親同士の交流のある場

- ・公園に行っても、それぞれの子がバラバラに遊ぶだけになってしまうが、「こっこひろば」のように、他の子と触れ合ったり時に喧嘩したり、人が居て色々な大人が見てくれるという場所がありがたく、もっとあると良い。
- ・海外の方や障がいを持つ方なども含めて色々な人と触れ合ってほしい。早いうちから世の中のことを知ってほしいと思う。
- ・幼稚園に入る前に、「こっこひろば」のような場があると、入園前の情報交換やつながりづくりができたと思う。
- ・一人目のときは、地域に子どもと同じ年齢の知り合いがいなかったため、様々な場所に足を運んだ。その時に近場に子育て支援センターがあるとよかった。

### ○文化芸術に触れる機会

- ・文化芸術に触れ合える催しがあると良い。子どもが小さいうちから触れ合えるようにしたい。クラシックコンサートなど、子どもが小さいと行きづらいため、気軽に行ける環境があると良い。

### ○給湯設備のある場

- ・粉ミルクで育てているため、お湯が出る場所があると助かる。



### ○商業施設の宅配サービス

- ・全ての商業施設で無料宅配サービスをしてほしい。ツルハドラッグは宅配してくれるが、ラルズマートはある一定以上の金額の買い物がなければ宅配してくれない。

## (6) 地域やご近所さんに期待すること（地域での支え合いなど）

### ○身近で気軽に子守をお願いできる知り合いがほしい

- ・一時的に、おばあさんが家族の食事づくりなどの家事のサポートや、家にきて家事をしている間、子どもを見てくれるサポートがあると助かる。
- ・出来るだけ「気軽に」お願いできると良い。

### ○子守をお願いできる窓口と専門的なサポートがほしい

- ・個人的な関係では気まづくなったりすることがあるかもしれないので、申込の窓口があり、しかるべき人が来てくれるような仕組みだと良い。（ファミリーサポートがそうなのかもしれないが）

### ○地域コミュニティのイベントの機会があると良い

- ・ここ2~3年で町内会の行事も増えてきた。
- ・町内会でも週に1回、会館を開放しており、地域の方とつながる場になっている。
- ・子ども会や町内会の行事は、対象年齢が幼稚園くらいなので、まだ参加していない。
- ・2~3歳向けの行事があるとよいと思う。

### ○知り合いがほしい

- ・今は幼稚園以外のつながりがないため、町内会でも子ども連れで行ける集まりがあるともう少し近所づきあいの幅も広がるのではないかと思う。
- ・ミナクル幼稚園に通うようになって近所に知り合いが出来て近所づきあいが出来るようになった。
- ・引っ越してきたばかりで周りに知り合いがいない。回覧板を回すときも、不在の方が多く会話ができない。隣の方は子育て世帯だが、町内会に入っていない。

### ○同世代の子どもやそのママ友と交流したい

- ・近くに住む人も子育てをしている方が多い。小学生未満のお子さんで同世代なのは良い環境である。
- ・周辺の子育て世帯は、上の世代の子が多いため、同世代の子どもをお持ちの

お母さんと交流したい。

- ・面倒くさくて「こっこひろば」などの子育て来ていなかったが、3人目の子どもができ、近所に同世代の子どもがいなかったため、家に二人でいることが多く、ずっと二人でいても煮詰まってしまうため、外に出てくるようになった。

#### ○病院の選択肢が増えると良い

- ・市内に3箇所の小児科があるが、先生と合わない。小児科は特に、子どものことをちゃんと見てくれる人が良い。予防接種など、この3箇所で受けることになっている(?)が、他の地域でも受けられると良い。

#### ○町内会費を安くしてほしい

- ・町内会費が高い(月600円)。
- ・町内会が高い(600円)。住んでいる人が多くなってきているため、安くなっても良いと思うが高い。以前は700円だった。

### (7) その他、樽川エリアの子育て環境で感じていることなど

#### ○子育てがしやすい

- ・石狩市は思っていた以上に子育てしやすいまちだと感じている。

#### ○小さい子どもが遊べる遊具がほしい

- ・近くの公園に、小さい子どもでも遊べる遊具があると良い。
- ・小さい子どもでも安全に乗れるブランコがあると良い(足を通してベルト付きのものなど)。
- ・ふれあいの杜の遊具は大きい子ども向けにまだ遊ばせるには怖い。かえり公園は何も無い。
- ・以前、なかよし保育園の支援センターに行った際、兄は園庭遊びが楽しめて、弟は、リアカーのような大きなカゴに乗せてもらって、兄弟ともどもとても楽しんでいた。

#### ○歩きにくい歩道がある

- ・歩道があまりなく、あっても雑草が生えているため、ベビーカーでは通行しにくいので、車道を通行している。
- ・パストラル会館周辺のインターロッキング舗装の歩道が、雑草が生えておりベビーカーを利用する際に歩きにくい。

#### ○街灯が少ない

- ・住宅地内は街灯が少なく、夜間は不安である。

**○さらに経済的支援があると良い**

- ・予防接種代を市で負担してほしい。以前よりは負担してくれるようになったが、もう少し頑張ってくれれば良い。
- ・上の子どもが18歳以上になると、3人目の子どもも第二子扱いになり、子育て支援が出なくなる。経済的支援を期待したい。

**○保育園を選ぶ際の情報がほしい**

- ・どの保育園が良いのか情報がほしい。実際に利用している方の声が聞きたい。幼稚園の見学には行くつもりだが、車が運転できないため行くのも大変である。

**○子育てに関するヒアリングの場が良い**

- ・今回のように、話を聞いてくれる機会があるのは良い。何か言いたいことがあってもわざわざ市に電話などしないため、ヒアリングがあり良かった。

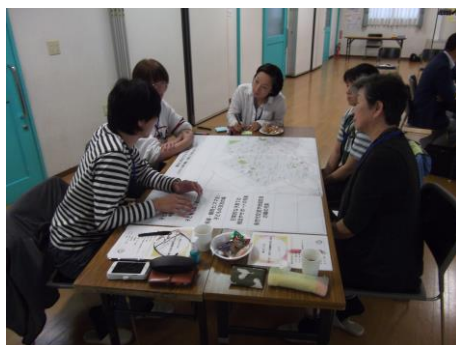
## 2) 第2回 座談会開催結果

### ①実施概要

日時：平成30年9月30日（日）13：00～16：00

場所：パストラル会館（樽川6条2丁目601）

参加者：12名



プログラム：

時間	内容	
13：00	開会、挨拶	石狩市保健福祉部子ども政策課伊藤課長よりご挨拶があった。
13：05	講演 「子どもの居場所と地域の関わりについて」	札幌市立大学デザイン学部講師片山めぐみ氏より、近年の子どもの虐待や貧困などの社会的動向を踏まえながら、日常的な多世代の付き合いをどうデザインするかというテーマについて、4つの事例を紹介いただいた。
14：15	休憩	
14：25	情報提供	石狩市子どもや子育てにおける現状と課題について触れ、全国の子育て支援拠点などの事例を紹介した。
14：40	意見交換	各グループに分かれ（4名×3グループ）、悩みや課題について共有し、それらに対して解決に向けたアイデアを出し合った。
15：40	発表	各グループで意見交換した内容を全体で共有した。
15：50	講評	片山講師より、意見交換について講評いただいた。
16：00	閉会	

## ②意見交換結果まとめ

### ■子どもの居場所づくり〈幼児、小学生、中高生〉

#### ◎現状や課題、悩み

- ・石狩市は幼児、小学生の居場所は多い方ではないか。
- ・ふれあいの杜公園や花川南すみれ公園の利用者が多い。
- ・中高生は、公園やコンビニでたむろしている。
- ・現状の児童館は、共働き世帯の子どもや会員でないと利用できない。また、樽川エリア外の利用者が多く、地域の人のためになっていない。
- ・樽川地区近辺では、花川南コミュニティーセンターに図書室があるが、遠い。
- ・次期学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」が掲げられており、教育の転換期を迎えようとしている。
- ・「将来社会の役に立つことをしたい」という生徒は多いが、町内会活動などの経験は少ない。その経験をどこで実現するかが課題である。

#### ◎解決に向けたアイデア

- ・地域の方が気軽に利用できる場が必要である。パストラル会館など、今ある場を活用してはどうか。
- ・会員や共働き世帯でなくても子どもが常に出入りできる場所があると良い。
- ・大学生が公園で子どもと遊ぶ取組みを広げていってはどうか。
- ・図書館がないので、学校図書館を地域に開放できると良い。
- ・現在、町内会のイベント等で中学生によさこいや太鼓などを披露してもらっている。今後も様々な機会で中学生を呼んで欲しい。
- ・子どもの成功体験が少なく、自己肯定感が低いため、子どもの良さを発揮できる場があると良い。
- ・子どもにもやるべき“しごと”が家庭内、地域内にある。それを子どもが自ら見つけていけると良い。

### ■子どもの遊び場の充実

#### ◎現状や課題、悩み

- ・子どもは公園に集まっている。中学生も公園のベンチにたむろしている。
- ・樽川地区内で遊具が充実した公園は、ふれあいの杜くらいしかない。
- ・小学校高学年は外で遊ぶことができるが、低学年以下は冬に遊べる場所がない。
- ・石狩手稲通を越えて遊びに行かせるのは不安である。
- ・バックネットなどの設備がある公園でもボール遊びができないなどのルールがある。公園ルールの見直しが必要である。

#### ◎解決に向けたアイデア

- ・小さい子を連れていける公園が、近く（歩いて行ける場所）にあると良い。
- ・子どもの遊び場は多世代の子どもたちが一つの場にいるのが理想である。もしくは、対象毎に空間を分けたり利用時間を分けたりする必要がある。
- ・新しく遊び場を建設するのであれば、樽川地域内が良い。
- ・花川南地区は子どもが多く、南子連のイベントの規模が他地域に比べて大きいいため、今後も継続して開催していきたい。

## ■妊婦・親同士(ママ友)・子ども交流の場

### ◎現状や課題、悩み

- ・車がないと、様々な施設へのアクセスが難しい。
- ・地域のお母さんたちが道端でお喋りしている。気軽に集まれる場所がないのではないか。
- ・既にママ友のコミュニティができており、満足しているのではないか。
- ・出産時の入院も、病院が個室だと妊婦同士の交流はないのではないか。
- ・親も子どもと同様、公園にすることが多い。
- ・おおぞら児童館などで子どもを遊ばせながら親同士で交流することが多い。
- ・情報があまり入ってこない。共働きは特に回覧板を見る時間がないのではないか。
- ・「COCOEI ね」は基本的には地域内の方を対象にしている良い。
- ・共働きの家庭が多いので、イベントを開催しても参加が少ないのではないか。

### ◎解決に向けたアイデア

- ・町内会の中だけでなく、地域をまたがったイベントを開催する必要がある。
- ・気軽にお母さん方が情報交換できる場があると良い。
- ・地域にいる若いお母さん方が集まれる場が身近にあると、日常の悩みもはき出して話すことができるのではないか。
- ・札幌のように子育てサロンが定期的にあると良い。

## ■日常的な子育ての相談やサポートの充実

### ◎現状や課題、悩み

- ・ファミリー・サポート・センターは、当日など急な利用が難しい。
- ・子育て支援に関する情報が必要な人まで届いていない。
- ・声を出して相談できる人よりも、自分では気づいていない、相談できないで困っているお母さんを見つけ出す方が難しい。
- ・保健師からの注意を真に受けない親も多い。
- ・〇〇セミナーなどは行きづらい（申込み、時間帯など）。
- ・発達障害の子が増えてきているが、知識がなく気づけない周囲の人が多い。
- ・相談センターに相談したが放置された経験がある。

### ◎解決に向けたアイデア

- ・子どもが生まれた際に手紙を渡すなど、町内会などの小さい単位で子育て支援の情報があると良い。
- ・子育て支援に地域差があってはならない。保健センターなどが先導してはどうか。
- ・子育て支援は「家族支援」である。
- ・産まれた時からの支援が大切。出産時から継続して専門家が母親や子ども、家族を見てあげられる仕組みが必要である。
- ・子ども・子育て支援のセミナーなどを開く際は、お母さんたちが集まる場に市側が出向くことが大切である。

## ■多世代交流や地域交流の場の充実

### ◎現状や課題、悩み

- ・子どもを含めて地域の人つながりが大切である。子どもは大人とつながりがあると地域のイベントに参加してくれる。
- ・民生委員や町内会役員が、公園にいる子どもに声かけに行っており、町内会役員が主な子どもとのパイプ役になっている。
- ・地域の人子どもを見守って育ててほしい。時には叱ってあげることも必要である。
- ・町内会役員が児童館などで子どもと遊ぶ機会があるが、時間が制限されている。
- ・ひとり暮らしの高齢者が子どもサロンに参加することがある。
- ・部活や学外のクラブに入っている生徒（中学生）が約8割と多い。
- ・様々な活動に協力したいが、時間など合わないことがある。また、シニアリーダーなどが協力したくても、大人側のハードルによって実現できないことがある。
- ・樽川地区の北側には会館がなく、現在使用している公民館樽川分館は古い。役員会議や高齢者の集まり、子どもたちの太鼓の練習などで利用するため、地域で利用できる場があると良い。

### ◎解決に向けたアイデア

- ・地域ぐるみで子どもを育てる意識を持つことが大切である。
- ・町内会に属していない家庭の子どもは子ども会に参加できないため、まずは町内会へ加入することが必要である。
- ・現役の親を町内会や地域活動に巻き込んでいくことが必要である。
- ・高齢者サロンの横で子どもたちの習字教室が開かれており、高齢者と子どもたちの交流が生まれている。そういった場を増やしてはどうか。
- ・子どもは知っている大人の言うことは聞いてくれるため、関係づくりが大切である。
- ・大人の方から子どもにお願いをすることで距離が縮まる。

- ・子どもが自ら地域での居場所を見つけなくてはいけない。
- ・学校の卒業生や、地域の方に学校に来ていただいて、連携できると良いと思う。地域のお祭りなどで顔見知りになるなど、長期的な視点で取り組んでいきたい。
- ・多世代交流や地域交流の場は、地域の人だけで運営するのではなく、市が専門家を配置すべきである。その上で地域の方々に運営のサポートをしていくことはできる。
- ・子どもだけでなく、同じ地域の住民として障がい者の社会的擁護などについても考えていくことが大切である。

#### ■(追加)勉強のサポート

##### ◎現状や課題、悩み

- ・勉強が分からないという中学生がいるが、どうサポートすると良いか悩んでいる。
- ・中学入学後の不登校生が増えているようである。

#### ■(追加)交通安全の確保

##### ◎現状や課題、悩み

- ・信号が少なく、子どもたちの道路の横断に不安を感じる。
- ・樽川エリア内は大型トラック等の車両の抜け道となっており、危険である。

##### ◎解決に向けたアイデア

- ・新たな遊び場や支援施設に行くまでの交通安全の確保も同時に検討すべきである。
- ・子どもたちが多く集まる大きな公園の前や、通学路などは信号を設置してほしい。また、通学時間には大型車両の交通量を制限するなどの安全対策をとってほしい。
- ・子どもが多く通る横断歩道は白線を引いてほしい。



## 4 地域ニーズの整理

既往調査および、ヒアリング調査、ワークショップによる意見交換により抽出した、子ども・子育て環境に関する地域ニーズを以下に整理する。

### 1) 子ども（幼児・小学生・中高生）の居場所の充実

#### ○日常のかつ近場に幼児が他者と関わりを持って親同士も交流できる場が求められている

幼児を持つ親子で日頃利用している場として、「出前っこひろば」「くるみの木広場（認定こども園・ひかりのこ いしかり内）」「もくば（花川南認定こども園内）」「りとるきっず（あいぽーと内）」が挙げられた。

しかし、「出前っこひろば」は開催頻度が少なく、もっと開催頻度を多く（出来れば毎日開催）して欲しいといったニーズのほか、「くるみの木ひろば」「もくば」「りとるきっず」は遠いため、特に日常的に自家用車を利用できない場合利用が難しいといった声も多く、もっと身近に日常的に利用できる「出前っこひろば」のような場を求める声が多かった。

また、「出前っこひろば」のような場は、ただ個々に遊ぶ場ではなく、他の子と触れ合ったり時に喧嘩をしたり、多くの大人が見てくれること、親同士が情報交換をしたりつながりづくりが出来るといった意見も多く、就学前の幼児にとって他者との関わりの中での成長の場、親同士が繋がる場として貴重という声が多かった。

#### ○需要オーバーしている放課後児童クラブの確保とともに、共働き世帯に限らず小学生が常に出入りできる居場所が求められている

南線小学校区の放課後児童クラブの需要は既に供給を超え、定員の120%で受け入れを行っている状況であり、早急に対応が必要になっている状況である。同時に、地域からは、共働きではなくても子どもが常に出入りできる居場所（児童館機能）が地域内にあると良いといった声が挙げられている。

#### ○花川南・樽川エリアにおける中高生の居場所が求められている

石狩南高校生から、「花川南コミュニティセンター会議室などで中高生が自習できる曜日や時間帯を設定して無料開放ほしい」という子ども議会提案があった通り、石狩南高等学校、花川南中学校、樽川中学校の中高生の居場所を求める声が挙げられている。

地域住民からも、中高生は公園やコンビニでたむろしているといった声もあり、放課後に過ごす場が限られていることが指摘されている。

## ○子どもの相談や学習サポートの場の必要性

図書館が無い地域のため、学校図書館の地域開放など地域内での図書機能を求める声があった。また、中学生の不登校生徒の増加への心配や、中学生が勉強がわからないと言っているがどうサポートして良いかわからないなどといった声もあった。子どもの学習の場やサポートの場、相談できる場の必要性が指摘されている。

## 2) 子どもの遊び場・遊び環境の充実

### ○小さな子どもから大きな子どもまで多様な年代に対応した室内外の複合的な遊び場が求められている

ふれあいの杜公園は遊具があり、走り回れるスペース（広場）も充実していて、子どもの居場所としてはとても良い、花川すみれ公園を利用している子供が多いといった声が挙げられている。ただ、ふれあいの杜公園小さい子どもが遊べる遊具や、安全な遊び場（室内）がないので、兄弟を同時に遊ばせることに苦労している。子どもの遊び場は多世代の子どもたちが一つの場にいることが理想といった声も挙げられている。また、冬場の遊び場を求める声も多く、特に、小学校低学年以下の子どもや、幼児が安全に遊ぶためには室内の遊び場が必要との意見もあった。

### ○遊び環境充実のためにはソフトの取組も必要

藤女子大学の学生が展開している公園で子どもと一緒に遊ぶ取組を、もっと多くの場所に広げていけないかといったソフトによる遊び場の充実を求める声もあげられた。

### ○安全に歩いていける近場の遊び場が求められている

国道（石狩手稲通）を渡らなくても安全に行ける樽川エリアに遊ぶ場が欲しい、車を使わなくても行ける遊び場、樽川地域内に遊び場が必要との声が多かった。同時に、子どもの遊び場や子育て支援施設までの動線は信号の設置など、交通安全対策や、ふれあいの杜公園の防犯対策を同時に検討する必要性が挙げられた。

## 3) 妊婦・親同士・子どもの交流の場の充実

### ○子どもが多様な人と触れ合える機会と同世代の子育てをしている親同士の交流の場が求められている

幼児の居場所の充実にある通り、就学前の幼児が他者と触れ合う場が必要であ

り、さらに、海外の方や障害を持つ方も含めて、早いうちから色々な人と触れ合う機会を求める意見も寄せられた。

また、同世代の子育てをしているお母さんとの交流の重要性、気軽に情報交換や悩み相談ができる場を求める声も多く挙げられた。

#### 4) 日常的な子育ての相談やサポートの充実

##### ○気軽に安心してお願いできる子育てサポートの充実が求められている

身内が近くに居らず相談できる人が身近に居ないことに不安を感じている、子育てしながらの日常的な家事や買い物等に苦勞しているといった悩みが挙げられた。また、現行のファミリー・サポート・センターは当日など急な利用が難しいといった意見もあった。

気軽に子守りをお願いできる知り合いが欲しい、急な対応も可能な支援といった、気軽なサポートを求める声と同時に、個人的な関係での依頼ではなく、専門的な窓口があり、しかるべき人が来てくれる仕組みが良いといった意見もあった。

##### ○子育てに関する情報を気軽に得られ相談できる環境や、対面型・双方向型の身近な相談窓口・体制が求められている

子育てに関して、経済的な不安や、保育園・幼稚園などを選ぶ際に情報不足で困っているという声も挙げられた。

また、出産時から継続して専門家が母親や子ども、家族を見てあげられる仕組みが必要、子育て支援に関する情報が必要な人まで届いていない、相談できないで困っているお母さんを見つけ出す方が難しいと感じる、町内会単位などきめ細かな体制で子育て支援情報を届けると良いといった意見もあった。

さらに、子育てについて、自分から市に電話をかけたりしなくても、話を聞いてくれる、言いたいことを気軽に言える場があると良い、情報提供する際はお母さんたちが集まる場に市側が出向くことが必要といった声も挙げられた。

まずは、現在ある制度や支援内容、保育所・幼稚園を始めとした子どもの施設等に関する情報を必要な人に届けられる体制づくりや、出産時から継続して相談に乗れるような体制を充実させていくことが重要であるが、特に、利用者側からだけでなく、情報やサービスを提供する側から自然な形で子育て中の親と繋がれるようなアプローチが求められている。

#### 5) 多世代交流や地域交流の場や機会の充実

### ○子育てをしている親が近所づきあいの幅を広げられる機会の充実

子供会や町内会行事は対象年齢が幼稚園以上なので幼児でも行ける行事があると良い、幼稚園以外の人とのつながりが無いため町内会でも子どもを連れて行けるような集まりがあると良いなど、近所づきあいの幅を広げていける機会を求める声が挙げられた。

### ○地域ぐるみで子どもを育てる意識づくりとその専門的サポートの必要性

子供を含めて地域の人とのつながりが必要。地域の人が見守って育ててほしい、時には叱ってあげることも必要。高齢者サロンの横で子ども習字教室が開かれるなど、高齢者と子どもたちの交流が生まれる場を増やしていくべき。といった地域ぐるみで子どもを見守る意識づくりや交流の場が必要との意見が多く挙げられた。

また、「将来社会の役に立つことをしたい」という生徒が多いが、町内会活動などの経験が少ない。子どもの成功体験が少なく、自己肯定感が低いため、子どもの良さを発揮できる場が必要。子どもにもやるべき仕事や家庭内や地域内にあり、子どもが自らみつけていけると良い。など、地域の中で子どもが活躍できる機会を創出することが、子どもの成長においての重要であるとの意見も挙げられている。

一方で、シニアリーダーとして協力したくてもなかなか実現できない実態があるほか、多世代交流や地域交流の場にも保育士や専門家などが必要とする意見もあり、専門的サポートの必要性も指摘されている。

### ○地域のみんなが快適に多目的に利用できる施設が求められている

公民館樽川分館の老朽化が指摘されており、地域活動や高齢者の集まり、子どもたちの活動など、地域で利用できる場があると良いといった意見が挙げられた。また、小さな頃から文化芸術に触れ合えるような場や機会を求める声もあった。

## 5 今後の方向性

### 1) 現状施設の課題

前章で整理した地域ニーズを踏まえ、樽川エリアの現状施設の課題を以下に整理する。

- ①放課後児童クラブの供給が不足している（需要超過）。
- ②地域子育て支援拠点のニーズは増えているが、樽川エリア内には無い。
- ③花川南コミュニティーセンターは稼働率が高く、中高生のための空間を確保することが難しい。おおぞら児童館は、中高生が利用するには狭い。中高生の居場所の確保が課題となっている。
- ④おおぞら児童館の老朽化が進んでいる。
  - ・開館年月：昭和54年4月
  - ・構造：木造2階建て　1階 255.82 m<sup>2</sup>　2階 108.73 m<sup>2</sup>　計 334.55 m<sup>2</sup>
  - ・実施事業：
    - 児童館運営事業（対象：幼児から18歳までの全ての児童）
    - 幼児開放事業（対象：幼児とその保護者）
    - 放課後児童健全育成事業（対象：就労等により保護者が昼間家にいない小学生）



④ 多様な年代に対応した安全に歩いて行ける室内外の複合的な遊び場

～小さな子どもから大きな子どもまで多様な年代に対応した室内外の複合的な遊び場

～安全に歩いていける近場の遊び場

⑤ 子どもや子育て世代家族が地域と交流できる場・地域住民がふれあえる場(サロン、文化活動・多目的室など)

～子育てをしている親が近所づきあいの幅を広げられる機会の充実

～地域みんなが快適に多目的に利用できる施設

⑥ 子育て支援や子どもの豊かな遊びをサポートするソフトの仕組み

～子育てに関する情報の充実や、対面型・双方向型の身近な相談窓口・体制

～気軽かつ安心して利用できる子育てサポートの充実

～遊び環境充実のためのソフトの取組展開

～地域ぐるみで子どもを育てる意識づくりとその専門的サポートの必要性